

明るい子 かしい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 2月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

児童数	(名)
計	395

緒方貞子さんから学ぶ～緒方さん流リーダーシップ～

校長 はらだ 原田 たくじ 卓治

2月を迎え、いよいよ学年末が見えてきました。また、様々な感染症が年末から猛威をふるい始め、本校でも蕨市でもインフルエンザは年末程の流行はしていませんが、学校としては、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症対策を引き続き行いつつ、その感染状況を見極めながら、教育活動を推進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、皆様もご存知かと思いますが、2019年にご逝去された緒方貞子さんは、かつて元国連難民高等弁務官として活躍された方です。元々学者だったため、緒方さんの国連難民高等弁務官としての手腕は、当時疑問視されていました。しかしながら、緒方さんは学者としての実績もさることながら、政治にも深く関わっていくこの仕事に際し、慣例を破り、次々と持ち前の行動力により絶大なリーダーシップを発揮し、様々な難問に立ち向かった日本の誇るべきリーダーです。

緒方さんが持ち合わせたそのリーダーシップの礎となっているのが、彼女が通った聖心女子大学初代学長 マザー・ブリット の教えでした。マザー・ブリットは、緒方さんに「自立した人でありなさい。知的な人でありなさい。そして協力的な人でありなさい。」という3つの教えを説きました。まだまだ女性の活躍の場が少なかったこの時代ではありましたが、マザー・ブリットは、これからの日本社会に女性の活躍が不可欠であることを見抜いていたのだと思います。このようにして、緒方さんを一人前の自立した、そして社会で不可欠な人材として育てていったのでしょう。現代社会でも十分通用する考え方だと思います。

このような教えを身に染みて感じていた緒方さんは、大学生の折、学生自治会の会長に選ばれ、学生達の異なる主張がぶつかり、紛糾する場面に何度も直面し、非常に苦労されることとなります。そこで困り果てていた緒方さんに、マザー・ブリットは、「あなたが学生達たちのイニシアチブ(主導権)を取りなさい。」と教えます。

そこで緒方さんは何をしたのか。緒方さんは地道に「なぜ、反対なの。歩み寄りにはできないの。どこまで歩み寄ることができるの。」と聞き役に徹したそうです。そして、その間を取り持ち、解決案を提示することを繰り返しました。そのようにして、緒方さんは学生達の信頼を得ていった(イニシアチブを取っていった)そうです。

社会に生きる私達の日常は、様々な衝突場面の繰り返しです。そのような中で、誰かがリーダーシップを取り、上手く調整していかなければなりません。

学校生活もこのような社会の縮図です。こうした緒方さんのような経験を、多くの子どもたちが体験できれば、子どもたちの将来の社会生活に大いに役立つと思います。そのような場面で、我々教師や大人は子どもたちのリーダーシップを支えてあげられるようにしたいものです。